

当院における吸着型血液浄化器レオカーナ™の使用経験

医療法人衆和会 長崎腎病院

○稲田さくら 林田征俊 矢野利幸 高木伴幸 中村麻衣子 井上 大 大塚絵美子 澤瀬健次 船越 哲

【背景】血行再建が不適応または不応答の包括的高度慢性下肢虚血(Chronic Limb-Threatening Ischemia:以下、CLTI)患者では下肢切断率が高く、生命予後は不良である。2021年、LDL-C・フィブリノーゲンを選択的に吸着・除去する吸着型血液浄化器レオカーナ™がCLTIの補助療法として保険収載されたが、その治療成績や治療効果の報告は少ない。今回、EVTにて血行改善困難な患者にレオカーナ™を使用する機会を得たので報告する。

【症例】59歳男性。右第1,2足趾潰瘍、黒色壊死を伴うCLTIにて右浅大腿動脈閉塞および膝下動脈の高度狭窄、閉塞を認める。血行再建術を施行するも治療効果が不応答であったため、レオカーナ™導入となった。

【方法】週2回、2時間/回のレオカーナ™を使用した血液吸着療法を3ヵ月間計24回施行した。血液流量は50~100ml/min、血圧や臨床症状で適宜調整した。評価項目は潰瘍の状態観察、潰瘍径の計測、血液検査、皮膚組織灌流圧検査(SRPP)を実施した。

【結果】治療前後で足趾の黒色壊死組織の縮小、疼痛の緩和が認められた。LDL-C、FIBは低下傾向であったが、SRPP値に変化は認められなかった。

【考察】今回、当院のレオカーナ™を施行した症例では、壊死組織の縮小、疼痛の緩和が認められ、血行再建術不適応なCLTIの補助療法として有用である可能性が示唆された。今後、適応症例には積極的にレオカーナ™を施行し、更なるCLTI補助療法としての評価を行いたい。